

ぐんまの鉄道

原田雅純 著



みやま文庫

まえがき

鉄道がはじめて群馬に到達した明治十六年十二月現在で、四十七都道府県のうち鉄道があつたのは、東京、神奈川、埼玉、大阪、兵庫、京都、滋賀、福井、岐阜、北海道の十都道府県のみであつたから、かなり早い時点で近代的交通機関に恵まれたことになる。

群馬の地を鉄道史の視点で調べてみると、全国的にみても興味深い事実がたくさんあるように思える。中山道鉄道幹線の着工とその後の中止、碓氷峠アプト式と松井田駅スイッチバック式の敷設、国鉄初の碓氷峠電化、東洋一といわれた清水トンネルの開通とループ式トンネルによる勾配の克服などがあげられる。軽井沢と草津温泉を結んだ草軽電鉄も、観光客に親しまれた。そして上越新幹線、北陸新幹線の開業へとつながっていく。

本書は、開業から百三十年を経た群馬の鉄道について、いくつかの注目すべき項目を設定して記したもので、年代別や路線別に記述したものではない。群馬の鉄道全体のあゆみについては、巻末の年表を参照していただきたい。

なお、本書の作成にあたっては、多くの文献を参考にしたが、本文中にはそれぞれの注記は省略し、参考文献として一括して掲げた。

目次

第一章 初めて汽車に乗った上州人

- 一 万延元年のアメリカ派遣……………三
- 二 文久二年のヨーロッパ……………二五
- 三 新島襄のアメリカ密航……………一八
- 四 小栗忠順と鉄道建設構想……………二二

第二章 高崎線の開業と機関車

- 一 最初の機関車……………二四
- 二 客車と貨車……………三三
- 三 高崎機関庫の創設……………三七

第三章 繭と生糸の鉄道輸送

- 一 シルクロード高崎線……………四六
- 二 上野鉄道の開通……………四八
- 三 繭の貨車輸送……………五三
- 四 大正九年における繭と生糸の動き……………五五
- 五 繭と生糸の鉄道運賃……………六〇
- 六 製糸工場への石炭輸送……………六三
- 七 荒船風穴の蚕種輸送……………六四

第四章 鉄道網の拡大と貨物輸送

- 一 大正・昭和前期の群馬県……………六七
- 二 製粉工場と貨物輸送……………七二
- 三 運送店の貨物取扱い……………七六
- 四 大谷石の貨車輸送……………八一
- 五 発着貨物と通過貨物……………八五

第五章 鉄道と災害

- 一 最初の鉄道災害……………八九
- 二 明治四十年と四十三年の大水害……………九一
- 三 昭和十年の水害……………九五
- 四 カスリーン台風の大水害……………九七
- 五 アイオン台風以後の水害……………一〇一
- 六 関東大震災の鉄道被害と復旧……………一〇二
- 七 西埼玉地震の鉄道被害……………一〇四
- 八 鉄道の防災……………一〇六

第六章 鉄道運賃の変遷

- 一 鉄道の開業と運賃……………一〇〇
- 二 通行税の課税……………一〇三
- 三 鉄道国有化後の運賃……………一〇四
- 四 敗戦後のインフレ時代の運賃……………一〇六

五 高度経済成長時代以降の運賃	二九
六 自動券売機からICカード乗車券まで	三三

第七章 戦争と鉄道

一 高崎運輸・保線事務所の設置	三四
二 軍需産業の発展と鉄道	三五
三 施設の撤去と転用	三九
四 上越線の輸送強化	四〇
五 長野原線の鉱石輸送	四一
六 業務機関の疎開	四三
七 鉄道の空襲被害	四四
八 連合軍と鉄道	四八
九 朝鮮戦争と鉄道輸送	五三

第八章 「鉄道町 水上」の変容

一 「鉄道町 水上」の成立	五五
---------------	----